



# さくらたより

令和5年度 学校だより  
NO. 14  
令和5年9月22日発行  
山形市立桜田小学校

## 日常を刻む

落ち着いた生活を送っています。国語や算数はもちろん、図工、家庭科、音楽なども、各学年の計画に沿って、着実に学習を積み重ねています。平凡でありながらも日常の生活が計画通りに進むことこそが、教える者にとっても学ぶ者にとっても“ゆとり”を生みだし、更に高みを目指せるようになるのだと改めて思います。



〔4年生「合唱」の練習〕



〔金管バンド 練習〕

学校は、教科の学習だけではなく、人間関係調整能力を育む場でもあります。人が集う場ですので、様々なトラブルはつきもの。成長途中の子どもですので、けんかや言い争いや悪さやちょっとした意地悪は、あるものです。それらを経験しながら、自分の行動に制限をかけたり、自分や相手の気持ちを理解したり、人と距離を置きながら付き合っていく術を獲得したり、間に入ってお互いの言い分を調整する力をつけたりしていきます。

学校では、担任を中心に複数の目で子どもたちの言動を見守り、指導しています。前述のように、人間関係を結ぶために必要なことを学習している途中の子どもたちですので、お互いにやらかしてしまうことはよくあります。

大人の介入が必要なおときには、一方的なものはずぐに、また“双方の言い分”がある場合には時間をかけて聞き取り、対処しています。いじめの心配があれば、より慎重に。学校で見逃していることがあるかもしれません。お子さんの様子や出来事など、気になることはお知らせください。時間をつくり、顔を合わせてお話ししていきましょう。

新しい先生 (9月4日から勤務)

## S・T 先生

産前産後休暇でお休みをいただいているO先生の代わりの先生をお迎えすることができました。全ての学年に関わっていただきます。今は主に、1年生の教室で共に生活・学習をしていただいています。

よろしくお願いたします。

## 10月 行事予定

2日(月)安全の日

4日(水)市公開研究会

(全校生弁当日)

5日(木)クラブ活動：3年生見学

6日(金)児童会委員会活動

11日(水)運動会に向けた係活動再開

13日(金)1年生自然の家(1年生弁当)

児童会代表委員会

14日(土)資源回収

20日(金)市民合同音楽祭

\*4年生合唱 参加(4年生弁当)

21日(土)秋季大運動会

(全校生弁当日)

\*雨天の場合、21日は休業日

22日に運動会実施

22日(日)市P連ソフトボール大会

23日(月)振替休業日

25日(水)市吹奏楽発表会

\*金管バンド4・5・6年生参加

(給食・弁当 無し 4時間授業)

26日(木)～31日(火)

個人面談(通知表配付)

## 敬老の日に思う 食卓を囲む“家族”の大切さ

9月18日（月）、「桜田敬老の集い」が4年ぶりに元木公民館で開催されました。東と西、合わせて22名の「米寿祝い」、6組の「金婚祝い」の方々をはじめ、お元気で敬老の日を迎えられました皆様に、お祝い申し上げます。

“集い”の来賓として挨拶する機会を得ましたので、何を話そうかあれこれ思いを巡らせていると、以前読んだ本の一部〔\*社説〕や自分の幼かった頃の“食”を思い出しました。子どもたちとおじいちゃんおばあちゃんとのつながりを話そうと思いを馳せたとき、休み時間にある子がつぶやいた言葉が、ふと頭をよぎったからです。「(コロナのために) おじいちゃんおばあちゃんと一緒に食べること、なくなった」というのです。

私は18日の挨拶の中で、次のようなことを話しました。

(前略) コロナの影響で大きなコトの一つに、「食べること」があると思っています。学校では黙食が当たり前になり(修学旅行ですら一方向を向いて黙って食べました)、制限が緩和されてもその傾向は続いています。食べること、食卓を囲むことは、栄養を取ることはもちろん、そこで繰り広げられる何気ない会話を通してお互いの心を通わせる場なのではないかと思いますが、学校ではその時間が少なくなりました。

ご家庭では? と想像したとき、「(コロナのために) おじいちゃんおばあちゃんと一緒に食べること、なくなった」という子どもの声を思い出してしまいました。おじいちゃんおばあちゃんと一緒に食卓を囲む場がなくなった(少なくなった)ということは、食卓を囲むことを通して心の交流が減ってしまったということ。昔のこと(出来事、食べ物など)を聞き、日常を語り合い、未来を夢見て、絆を深める…。そのような場が少なくなってしまったようです。

私は“ばあちゃんっ子”でした。父は単身赴任、母は働きに出ていました。台所の権限を持つのは、ばあちゃん。食卓にはイナゴの佃煮、ひょう、どじょう汁、すいとんなどなど、ばあちゃん料理。おやつは“干し”(ごはん粒の残りを洗って天日干しにして保存しておき、それを油で揚げ、醤油・砂糖で味付けしたもの)。「戦中・戦後の食糧難」を毎日のように聞かされました。食べ物を粗末にしない、もったいないという感覚は、子ども時代に育まれました。

ここにお集まりの皆様も、きっと、それぞれ、皆様の心を育んだ「食卓」がおありのことでしょう。ご家族のことがよみがえってくることでしょう。そしてそして、皆様が、次の世代の心を育む「食卓」をつくってこられたのではないのでしょうか。命のバトンをつなぎ、心のバトンをつないできた皆様に、改めて敬意を表します。これからも長生きし、お元気で、昔話と未来の話をしながら、ご家族と食卓を囲んでいただけることを、切に願います。

〔\*社説〕は「人生を支え続ける食の風景」という小見出しで、NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」の一場面を紹介したあと、次のように結んでいます。

(以下 抜粋)

「しかし今、そんな戦争などないのに、我々現代人はどれだけの愛情と絆と優しさと思いやりを食卓に広げているだろうか。いつの時代も“家族”と“食”は切り離せない。子どもは食べながら大きくなる。食べながら、同時に愛情と絆と優しさと思いやりを噛み締め、生きる糧ににしていくのだ。『いただきます』『ごちそうさま』『美味しかった』の思い出は、一生私たちの人生を支えていく」

〔\*社説：『日本一心を揺るがす新聞の社説3』水森もりひと著(ごま書房新社)〕